曖昧なものへの不断の退却：ヘンリー・ジェイムズの『アメリカ人』について

高　橋　哲　徳*

Forever Tailing Off into the Ambiguous: A Study of Henry James's *The American*

Tetsunori TAKAHASHI*

Abstract

The hero's apparent characteristic of 'the American Adam' and the connotation of his name, Christopher Newman, impel us to read Henry James's *The American* as both a romance of 'innocence-experience' opposition and a realistic representation of the American type, which makes his position ambiguous in the perspective which presumes American literature of the late 19th century to be the development from romanticism to realism. Yet, in this case, using his ambiguity as a clue for reexamining the perspective itself is more rewarding than treating him an important exception. In this essay we will reveal the internal continuity between romanticism and realism and, referring to Northrop Frye's study of irony, analyze James's ironic attitude toward the former literary forms to show the possibility of understanding *The American* as a critical reconsideration of American literary convention.

Keywords: Henry James, irony

I

クリストファー・ニューマン（Christopher Newman）という名の人物が主人公である『アメリカ人』(*The American*)[1] と名づけられた作品が，いかなる意味でも曖昧であるとは考え難いのだが，にもかかわらず，この作品は人を奇妙に分裂した状態へと導く。一方で，主人公の名前の露骨な寓意性は，この作品をロマンスとして解釈するようわれわれを誘う。実際，ジェイムズ自身がニューヨーク版のために書いた「序文」の中でこの作品を「ロマンス」と呼んでいるし[2]，それとはやや異なる視角からではあるが，たとえば，T・S・エリオットはジェイムズとアメリカのロマン主義，特にホーソンとの類縁性を指摘し，それを受けたF・O・マシーセンも同様の趣旨の解釈を行っている[3]。より広いコンテクストにおいて考えれば，R・W・B・ルイスが考察した「アメリカのアダム」という神話や，R・チェイスの主張するアメリカ小説の「伝統」を参照しながらこの作品を読むこともできるだろう[4]。

他方，われわれは，ニューマンをアメリカ的特性の典型として捉えること，すなわち，特殊な個人の人生と他の人々の人生との同一視を前提とするリアリズム小説としてこの作品を読むことをも強く要請される。もちろん，クリストファー・ニューマンという名前は，リアリズム小説によく見られるようなありふれた平凡な名前ではなく，特定のタイプを表すものである[5]。しかし，この作品を読む者は，ニューマンの特性として提示されている事柄や彼の言動を空想

平成10年10月16日
* 総合教育センター・講師